

子ども医療費無料化の後退ゆるさない!

子ども医療全国ネットが署名提出&国会内集会

「子ども医療費無料化を国に求める全国ネットワーク」(子ども医療全国ネット)は5月29日、国会内で集会を開き、国の制度として18歳までの医療費無料化を求める署名を提出しました。

国の責任で一律に

集会は、オンライン併用で行われ、新婦人から4道県、子育て世代の女性や医療関係者ら100人が参加。全国から寄せられた署名は21万8954人分(うち新婦人9万8954人分)でした。子ども医療費無料化の創設を願い活動す



署名に願いを託し国会議員に5月29日

る「子ども医療全国ネット」は、新婦人、医療福祉生協連、全日本民医連、全国保険医団

体連合会(保団連)、中央社保協で2001年から活動し、今日までに18歳まで無料とする自治体が8割を超えました。

愛知社保協副

議長の新田和男さんは、なぜ全国一律の無料制度が必要かのミニ学習で「国は無料化が進むと無駄な受診、夜間・時間外の受診が増える」と

悲痛な声、聞いて

オンライン参加でシママ大阪応援団代表理事の寺内順子さんは、ひとり親家庭の実態を報告。「物価高騰に米の価格高騰も追い打ちとなり、子どもに衣食住すべてを我慢させ、自身も1日1食しか食べられない。窓口負担の500円は非常に重いもので受診をた

めらい、重症化でかえって医療費がかかることになり子どもの命に達しかれるようにしてほしい」と訴えました。

宮城県の新婦人緑支部の松田悦子さんは、

長年の運動で仙台市の医療費無料が2026年4月から18歳まで拡充すると報告。「これまでに会を作り、市や知事に署名やアンケートなどで保護者などの

狙われる負担増

子ども医療費助成が全国各地で拡充される一方、維新が2025年予算案に賛成の見返りに医療費の「4兆円の削減」を合意。OT

C類似薬(解熱鎮痛薬、皮膚保湿剤、花粉症薬など)を自民・公明・維新が保険適用外にしよつとしています。無料であるはずの子どもの医療費が市販薬の購入でお金がかかるようになり、受診控えや自己判断による服薬で薬物中毒など健康被害や病気の重症化などの危険性もあります。

参議院選挙が目前に迫るなか、全国ネットとして各政党に国の制度創設やOTC類似薬の保険外しの態度などについて、アンケートを実施(結果は子ども医療全国ネットのホームページ掲載予定)。

どの政党が制度を阻んでいるのか、投票行動の材料として活用し、今後も18歳までの医療費窓口負担無料を「国の責任で」と求め活動していくことを確認しました。

集会には、日本共

産党の本村伸子衆院議員、倉林明子、山添拓西参院議員、立憲民主党の川原田英世、野間健、松下玲子、眞野哲衆院議員ら7人の国会議員がかけつけ激励し、れいわ新撰組の天島大輔参院議員からメッセージが寄せられました。

主張

米不足と価格高騰が暮らしを圧迫し続けています。政府は3月に備蓄米放出を始めたものの、店頭には届かず、価格は昨年同期の2倍に上がっています。国民の怒りに、政府は22年、21年産の備蓄米30万トを追加で大手小売業者に売り渡し、5キロ2000円(円台で店頭)とアピールしています。しかし国内でひと月の米の消費量は約60万ト。効果は限定的であるうえ、残る備蓄米は半月分相当の30万トです。主食の米不足を引き起こした国の責任は重大です。この間、自公政権は需給調整も、価格も市場任

食べ続けたい日本のお米 選挙で農政の大転換を

2000年に175万戸あった農家は53万戸に激減し、新規就農者も増えていません。問題の根本的な反省もなく、今後どうしようというのでしょうか。新婦人の緊急オンラインアンケート

せ。生産費も出ない米価暴落に對策せず、減反政策を続けてきました。昨年末時点で44万トの不足にもかかわらず、政府は「米不足」を認めず、備蓄米がなくなったら外国産米をのささえていきます。

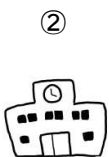
トには、消費者が手ごろな価格での安定供給を望む声とともに、「国の責任で農家への価格保障、所得補償制度を作って」の声を多数寄せられました。「国産米を食べ続けたい」「アメリカ産米は増やさないでよい」が9割を超えます。大阪では生産者と「日本の食と農を考える」交流会を130カ所で選挙カフェとして開催。「無責任な農政、参院選で変えよう」の声が上がっています。班や小組で新婦人しんぶんでおしゃべりし、生産者との交流や学習を広げましょう。私たちの食と農を守る政治へ確かな選択をしましょう。



野党議員も次つぎ発言

いま教室で 子どもたちは

公立小学校教諭 数内恵



今年度が始まり2カ月が過ぎました。子どもが学校生活に慣れてきたこの時期「勉強がつまらない」「友達とどううまくいかない」「宿題やりたくない」など、子どもたちからポロリと本音が出てきます。親としては心配になって、つい「何があったの?」「どうしてできないの?」と問いたたしなくなるもの。でも、そこで少し立ち止まって、「見守り育てる」関わ

り方を意識してみるのはいかがでしょうか。言われても、具体的にどうすることが「見守り育てる」になるのかと、悩むのも親です。私自身も、「黙って見ているも、子どもは育たない」と、気付けばあれやこれやと口を出していたこともあったなど、振り返ります。だからこそ、みなさんと「見守り育てる」について共有したいと思っています

「見守り育てる」とは? たえば、子どもが「〇〇くんが意地悪された」と話したとき、すぐに相手がどんな子か判断するのはなく、わが子に「本当はどうだったの?」「どうなっていたらよかったと思う?」と聞いてみると、「仲良くしたかった」「一緒に遊びたかった」など、願いが見えてくる場合があります。その自分の願いに気づけた子どもは、自分で行動する一歩を踏み出せるようになります。それは、自「実現の一歩です。子育てに「正解」はないと、前回は書きました。「何が正しいか」ではなく、「何からならできるか」を考えてみるのが大切です。大きなことを一気に変えようとしなくてもいいのです。今できることから、少しずつ。一緒に悩みながら、歩いていけたらいいですね。(次回は7月12日号)



植え替えたツルレイシを観察する